

第8回水稲病害虫発生予察結果

5月上旬田植えの早生品種 [コシヒカリ・キヌヒカリ等]

【稲の生育状況について】

ほとんどの田んぼで開花期～乳熟期（モミをつぶすと白い汁がでる時期）、となっています。

籾が成熟するためには水が必要となり、根の働きを促すには酸素が必要となりますので、引き続き**間断灌水**を行いましょう。

【病害虫の発生状況について】

田んぼによって発生数は異なりますが、どの地区の田んぼでもカメムシの発生が確認されました。

カメムシの防除には農薬の散布が必要となります。薬剤はJ A伊豆の国修善寺営農センターにて販売しておりますので、ご利用下さい。

《**粉剤**によるカメムシ防除のポイント》トレボン粉剤、スタークル粉剤など

- ① 穂が開花してから籾を硬くするまで10日程かかります。籾が硬くなってしまえばカメムシによる食害はなくなるのですが、籾が柔らかい（白い汁が出る）時期は絶えずカメムシが食害します。
この10日程の期間を粉剤で防除するには、1回では防除しきれないので2回防除を行いましょう。
- ② カメムシの習性として日中の暑いときは稲の株元にいることが多く、粉剤がかかりにくいので、できるだけ**早朝（9時まで）**の涼しい時間をねらった散布をおすすめします。

【病気の発生状況について】

一部の地域で写真のような紋枯病が見られました。はじめは株の根本に楕円形の病斑をつくり、根元から徐々に上側へ侵攻し、倒伏を助長します。

紋枯病は田んぼ内が高温多湿の条件下で発生が活発化します。病斑が株の上側へ侵攻するようであれば、農薬による防除を行い、病気の進行を止める必要があります。

紋枯病



5月下旬田植えの晩生品種 [あいちのかおり SBL 等]

幼穂（穂のもとになる部分）が0.5cm～1.5cm程度となりました。幼穂の生長には水と酸素が必要となるため、中干しを終了し、**間断灌水**を行うようにしてください。

また、穂肥の適期となっておりますので、幼穂が8cm程度になるまでに施用するようにしましょう。

それより遅くなると米の食味低下の原因となります。